

## Ⅱ 学園だより Ⅱ

### 体育館落成記念行事後記

一 宮 嘉 孝

菊薫る文化の日、身延山短期大学々園体育館新築落成、記念式典が挙行された事は学園関係者の御助力の賜と感銘すると共に、現場を預かる我々にとってその使命の重大さに身の引締まるものを感じさせられた。云い古された言葉だが健全なる精神は健全なる身体に宿るとか、これからの宗門の擔手である若人にその鍛錬の場が与えられた事はいかばかりかその意義や大であると感ずる。愚生学園に奉職当初（八年前）は校庭とは名ばかりの猫の額程の場所しかなく体育器具等どこを探しても全く無い状態で学生諸君は体育の授業に奥之院思親園登山や寺平の農道を素足でそれが現在学校体育の全てであるが如く不平も云わず精進したのを思うと今日この新体育館が学生諸君に与える影響がいかに大きいものか計り知れないものがある。

扱てその落成記念行事であるが数度の教職員会議、本院等の折衝の結果山梨県下五大学對抗柔道試合に決定され理事長先生始め諸先生の御援助でその準備が着々と進められ

たところ、ある種の危惧が愚生に去来した。我が学園柔道の歴史は戦前には武道場があるにはあったらしいのだが、戦後先任の松本学昭五段（現身延積普流道場主任本妙寺住職）先生当時より始まったと聞くが柔道場は前記体育設備と同じで普通の教室（もともと窓が全くないので教室と云えないが）に三十六畳の狭いところで体育の正課目として柔道を教えて居たが松本先生の京都遷住により後任として愚生が三十六年に奉職したが降れば吹き込む雨の為畳の上げ下げや風の為ほこりで真白になる畳に悩まされながら悪環境の中で「精力善用・自他共栄」の柔道目標完遂の為幾多の学生が精進し何人かの有段者をも生み出して来た。しかし高校、大学を併せ三百人たらずの本学園が幾千人の学生を有する他大学との柔道試合はいかに体育館落成記念招待試合と云えども比肩出来るかどうかとの危惧であった。過去県下高等学柔道大会には本学園高校も数度出場し特に昭和四十年には有段者四名を擁しC級乍ら県立農林高校等三校を撃破し準優勝の榮に輝いた時代もあったのが今春初めて参加した県下五大学對抗戦にはゴールデンウィークと重なり本院支院が多忙な為思うように選手が集まらず目を覆う戦績で最下位となってしまうのである。しかし優勝する事より先ず参加する事であるの譬、過去の戦績を良薬

とし学生諸君の努力と、本院、学園諸先生の御支援とで晴れの体育館、落成記念行事に県下大学の柔道試合が開かれ地元の利もさることながら本学選手諸君の發憤は目をみはるものあり国立山梨大学（本大会優勝校）に四対二公立都

（本学講師・講道館五段）

留文化大学に三対二と惜敗こそすれ公立大月短大には見事五対一の大差で春の汚名の雪辱をとげ三位入賞招待各大学に身延山短大強しの感を与えた。これはひとえにこの立派な体育の場を与えられた学生諸君の喜びの現われの外何ものでもないと確信する。二試合に先立ち立正大学柔道師

山 田 是 明

範八段依田徳藏先生山梨県柔道会長八段浅川源澄先生山梨県柔道理事長七段河野友男先生の柔道古式の型、柔の型の髓を頂き普段見た事も接した事もなかった柔道の奥義真髄を目の当りにし、六段松木幹之甫先生、本学出身五段小平慈悦氏の技の解説に法主猊下も身を乗り出すように熱心に御観覧なされた事は、以後学生諸君の大きいなる發憤を促し感激させた次第である。現今の世相は巷間にゲバ棒で意味ない闘争を繰りかえしている大学々生の多い時に本学園学生の行学二道に精進する様を見今身心の場を与えられその意気大いに昂揚している様に接し再度学園関係諸先生の御英断に感謝し学生諸君と共に益々身心の鍛練に尽力する覚悟を確固としたものである。

終りに本記念行事に御協力下された本院本学諸先生を始め審判等の労を頂いた県柔連の諸先生選手諸君学生役員の諸君に心中より感謝申し上げます。

スポーツの場のややもすれば乏しかった、この学園に、「体育館」を建立設備して頂いたことは、無上宝珠、不求自得、にも似た大歎喜であります。それと共にこれを充分に活用して、学生生徒と共に、山内一門の修練の道場たらしめ、給仕奉行の基盤として参りたい思いであります。「行学二道をはげみ候べし」との御聖訓の行を但信口唱の題目一行に拝むことが、ほんとはあるうが、この完成された体育館での活動の諸作も亦、この行のうちであり、学でもあると希うものであります。ただに「身心共に健康な国民の育成」と云う教育基本法の狙いのみならず、末法応時の法華経弘通の行学の道場であらねばならないと存念致して居ります。

スポーツ運動を通して学ぶものは、ただに技を競うのみでなく「自己との戦い」などと表現される内面的な修練こそが、重く視られねばならない。又「チームワーク」と称する社会生活での、心と心との触れ合を養う修練の場でもある。

青少年に、より自然的に、より興味を高めつつ、体操にスポーツに、その身心を労し、身心を役して練磨に励む間に、宗祖棲神の祖山に学ぶ者の内外両用に亘つての人格完成をこそ、この体育館の目途としたい。

体育館落成記念行事、学園祭は、十一月一日は、弁論大会、仮装行列、二日目は箏曲、華道、茶会、空手演武会が順当に終了し十一月三日文化の日、体育館落成式でした。

あたかも落成を祝福するかの如く澄んだ空は辛々鋒ゆる古木の鮮緑をバックに壁・覺堂々広濶森嚴なる体育館にて法主猊下を導師とし、式は莊嚴に行われました。

式後体育館開きには、「法主杯争奪、県下五大学柔道大会」を催しました。

柔道は本学の校技とも云うべきものであり武道であり、民族文化でもある。

身体活動の実践を通しての忍耐力や克己心を高め、礼儀やその他の精神的な、修練を通して、社会的な態度を育成

し、身心共に豊かな人生を築くに適切であることから、我が校は必須教科として、教育課程に位置づけてあるのです。試合の場の少ない本学において絶好の場が与えられました。

「投の形」「古式の形」等、演武して頂いた、講道館の依田先生、山梨県柔道連盟会長浅川先生、かなりの高令にもかかわらず、烈しい動き、姿勢、礼儀等、古武士を偲ばせる、尊い程の偉容に深く教えられる所がありました。満場寂として声なく、感激の思いに、過じたことは、スポーツ（体育）を知る者の、喜びであると共に、これこそ体育館落成記念であると感謝の気持ちで一ぱいあります。

終りに体育館の建立を仏祖三宝に奉謝すると共々諸先輩各位に感謝申上げ、今後の精進をお誓い致します。

(体育主任)

## 学 会 報

### ▲昭和四十三年度▼

#### ○日本仏教学会

昭和四十三年度の日本仏教学会学術大会は、十月十九日